

平成 17 年度 国際学術コミュニケーション委員会

GIF プロジェクト活動報告

1 GIF プロジェクト会議等開催状況

- ・平成 17 年 10 月 26 日平成 17 年度第 2 回国際学術コミュニケーション委員会において日米 ILL/DD における運用連絡体制及び GIF の諸課題について協議した。
- ・平成 17 年 12 月 5 日次期 NCC 議長のバゼル山本登紀子氏の来日を機に GIF プロジェクト会議を開催し、Webcat における GIF 参加館抽出等について協議した。
- ・平成 18 年 1 月 31 日 NCC ILL/DD 委員会の Co-chair であるシャロン・ドマイヤー氏の来日を機に GIF プロジェクト会議を開催し、2006 年 4 月の NCC 会議における GIF 関連のプレゼンテーションについて協議した。
- ・サンフランシスコで開催された 2006 CEAL (The Council on East Asian Libraries) Annual Meeting に、4 月 5 日から 7 日の 3 日間 GIF プロジェクトチームメンバーが参加し、NCC の ILL/DD 委員会メンバーとの協議及び GIF に関するプレゼンテーション等を行った。

2 活動概要

(1) 日米 ILL/DD プロジェクト

GIF プロジェクト参加状況

参加機関数は平成 18 年 4 月 28 日現在で日本側 115 機関、126 図書館(内訳：国立大学 62 機関 73 図書館、公立大学 4 機関 4 図書館、私立大学 45 機関 45 図書館、大学共同利用機関 4 機関 4 図書館)、北米側 46 機関、50 図書館であり、平成 17 年 10 月以降日本側 15 機関 15 図書館、北米側 1 機関 2 図書館の増加となっている。

現物貸借サービス参加状況

現物貸借サービスの参加状況は、平成 18 年 4 月 28 日現在で、日本側 66 機関、68 図書館(内訳：国立大学 39 機関 41 図書館、私立大学 22 機関 22 図書館、公立大学 3 機関 3 図書館、大学共同利用機関 1 機関 1 図書館、その他 1 機関 1 図書館)、北米側 25 機関 25 図書館であり、平成 17 年 10 月以降日本側 16 機関 16 図書館の増加となっている。

日米 ILL/DD 実施状況

平成 17 年度の日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。平成 17 年度は、OCLC のシステム更新の際に発生した ISO ILL サーバの障害が長引いたため、前年度に比べて依頼件数は減少した(26%減)が、受付件数は 5.2%増加した。

表1 日米 ILL/DD 実施状況（平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月）

| | 依頼件数 | | | | 受付件数 | | | |
|------|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| | 完了 | 謝絶 | その他 | 計 | 完了 | 謝絶 | その他 | 計 |
| 文献複写 | 357 | 320 | 47 | 724 | 214 | 284 | 57 | 555 |
| 現物貸借 | 70 | 110 | 49 | 229 | 22 | 127 | 19 | 168 |
| 合計 | 427 | 430 | 96 | 953 | 236 | 411 | 76 | 723 |

この表からは、依然として日本側受付分の謝絶が多いことがわかるが、謝絶率は平成 16 年度に比べ減少した（72.4% → 56.8%）。

この謝絶率が高いという問題については、今年度平成 16 年度のデータに基づいて詳細な分析を行い、その結果、謝絶率を高くする要因のひとつが国内 ILL と国際 ILL とのシステム上の相違によるがわかった。（別紙「平成 16 年度米国から日本への依頼のデータ集計について」を参照。）今後は NII の統計についても、この点を考慮した集計を行うよう依頼したい。

また、謝絶理由の分析の結果、その大半が「書誌・所蔵なし」であること、それが一部の依頼館でとくに顕著であることもわかった。

OCLC ISO ILL サーバ障害による日米 ILL/DD の停止

OCLC のシステム更新に伴って発生した ISO ILL サーバの障害は、平成 17 年 11 月 16 日に回復し、同時に日米 ILL/DD が再開された。停止期間は約 5 ヶ月に及んだ。

今回のような長期にわたるシステム障害時の代替サービスについて、日米間で協議を行ったが、まだ結論は出ていない。

GIF の参加範囲について

GIF は、国公立大学図書館協力委員会及び国立大学図書館協会の活動として取り組んでいるものであるが、大学図書館以外からも参加希望が出てきたことから、その取扱について GIF の参加要件を作成して検討することになっている。

ILL/DD 委員会メンバーの変更

NCC ILL/DD 委員会のメンバーの交替があった。

（<http://www.libra.titech.ac.jp/GIF/outline/gif-member.html>）

新委員

- ・ Margaret Ellingson, ILL Team Leader, Emory University
- ・ Michelle Foss, Interlibrary Loan Librarian, University of Florida

（2）日韓 ILL/DD プロジェクト

暫定サービスの参加状況

平成 18 年 4 月 28 日現在、日本側参加館は、71 機関 89 図書館（国立 45 機関 59 図書館、私立 23 機関 26 図書館、大学共同利用機関等 3 機関 4 図書館）、韓国側参加館は、

226 館となっている。平成 17 年 10 月以降日本側で 1 機関 1 図書館が増加している。

日韓 ILL/DD 実施状況

日韓 ILL/DD は平成 16 年 11 月から暫定サービスが開始され、順調に利用が増えている。平成 17 年度の利用状況を表 2 に示す。

表 2 日韓 ILL/DD 実施状況（平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月）

| | 依頼件数 | | | | 受付件数 | | | |
|------|------|----|-----|-----|------|-----|-----|-------|
| | 完了 | 謝絶 | その他 | 計 | 完了 | 謝絶 | その他 | 計 |
| 文献複写 | 109 | 9 | 1 | 114 | 997 | 100 | 42 | 1,139 |

本格サービス及び現物貸借サービスについて

KERIS 側に担当者の交代等があったが、本格システムに向けて NII と KERIS とのやりとりが開始された。GIF プロジェクトにおいても、今年度、暫定サービスの評価及び本格サービスへの移行、現物貸借の実施等について協議を進めることとしている。

(3) CEAL 会議における日米 ILL/DD 協議について

2006 年 4 月サンフランシスコで開催された CEAL 会議に参加し、日本資料委員会に出席するとともに、日米 ILL/DD について北米側の参加者と協議を行った。

CEAL 日本資料委員会への参加

4 月 6 日（木）に GIF プロジェクトチームメンバー（笹川、井上）が出席し、「日本におけるデジタルリソースの現状」（井上）及び「東京大学において利用可能なデータベース及び電子的リソース～日本語資料～」(笹川) について報告を行うとともに、パネルディスカッションに参加した。

NCC ILL/DD 委員会との協議

4 月 6 日（木）に日本側から GIF プロジェクトチーム（笹川、井上、森）及び NII（宮沢、相原、服部、関戸）、北米側から NCC の ILL/DD 委員会メンバー等（Sharon Domier, Chiaki Sakai, Hitoshi Kamada, Fabiano Takashi Rocha, Yoko Okunishi）が出席して、Webcat Plus 英語版に関わる北米側からの要望を中心に協議が行われた。その結果、以下の点について合意がなされた。

Webcat Plus 関連

- ・ 検索対象として「雑誌」をデフォルトで含める。
- ・ 検索例を実際に検索可能なものにする。
- ・ ISBN/ISSN 等の検索ボックスの検索例に NACSIS record ID を追加する。
- ・ その他の要望事項については、今後の検討とする。

Webcat Plus の表示に合わせて、GIF ホームページの参加館一覧（英語版）を修正する。

ILL/DD 委員会の GIF サイトが立ち上がったことから、現在 NII が担当している北

米側参加館一覧の管理は、今後北米側が行う。

NCC 公開会議への参加

4月7日(金)開催の標記会議に GIF プロジェクトチームメンバー(笹川、井上、森)が参加し、北米側メンバーを中心に「GIF プロジェクトと ILL/DD 委員会の活動について」というテーマでプレゼンテーションを行った。

会議の冒頭、GIF プロジェクトチームメンバーの笹川東京大学附属図書館に対して、NCC より感謝状が贈られた。

GIF プロジェクトポスターセッションの開催

4月7日(金)日米の GIF プロジェクトメンバーにより、国際交流基金主催のパーティ参加者に対するポスターセッションを開催、GIF への参加案内を行った。

(4) 北米 GIF プロジェクトによる GIF Quick Guide 等の作成

北米における GIF プロジェクトの浸透を図るために、北米側 GIF プロジェクトメンバーにより、「GIF Quick Guide (Requesting materials from Japan through GIF Project)」及び「A step-by-step guide to verifying ILL/DD requests using Webcat Plus」等の広報資料が作成され、上記の公開会議及びポスターセッションで配布された。

3 今後の課題

- (1) 日韓 ILL/DD プロジェクトの本格運用、現物貸借の実施
- (2) 日米 ILL/DD の改善と国際 ILL 担当者のスキルアップ方策
- (3) GIF 参加館の範囲の拡大について
- (4) 北米以外の国々との国際 ILL の展開
- (5) デジタルリソースの形成・流通に関する日米の連携・協力

以上

別添資料 平成 16 年度北米から日本への ILL 依頼データの集計について

表 1 平成 16 年度受付図書館単位・OCLC レコード単位集計

| | 状 態 | 文献複写 | 現物貸借 | 全 体 |
|-------------|-----|-------|-------|-------|
| 受付図書館単位 | 確 認 | 176 | 52 | 228 |
| | 謝 絶 | 386 | 123 | 509 |
| | その他 | 4 | 1 | 5 |
| | 合 計 | 566 | 176 | 742 |
| | 確認率 | 31.1% | 29.5% | 30.7% |
| OCLC レコード単位 | 確 認 | 176 | 52 | 228 |
| | 謝 絶 | 130 | 61 | 191 |
| | その他 | 1 | 1 | 2 |
| | 合 計 | 307 | 114 | 421 |
| | 確認率 | 57.3% | 45.6% | 54.2% |

* NACSIS-ILL も OCLC-ILL も一件の依頼について最大 5 図書館まで依頼先を指定でき、最終的に「確認」されれば、依頼は完了したことになる。しかし ISOILL プロトコルでは、依頼先の複数指定に対応していない。したがって、日米 ILL/DD では OCLC-ILL で複数館指定されていても、1 図書館毎の個別依頼として処理される。ただし、OCLC-ILL で複数の依頼先が指定されている場合には ILL レコード中に同じ OCLC 番号が保持されていることから、それらが一件の依頼であることが調べればわかる。上記表で「受付図書館単位」は、すべての依頼を個別依頼とみた場合の集計であり、「OCLC レコード単位」は同一の OCLC 番号をもつ依頼をまとめた集計である。両者の差は最大 26 ポイント以上になっていることがわかる。

表 2 平成 16 年度謝絶理由調査結果

| | 謝絶理由 | | | | | | | | | | | | | | 計 | |
|------|---------------------|------|------|------|-----|------------|-----|------|------|--------|------|----------|---------|-----|------|------|
| | GIF メンバーによる 検索結果 | | | | 欠号 | 貸出・ 利用中 | 研究室 | 所在不明 | 利用不可 | 文献指定なし | 参照不全 | 指定送付方法不可 | 期限内送付不可 | その他 | | 理由不明 |
| | 書誌なし | 所蔵なし | 巻号なし | 小計 | | | | | | | | | | | | |
| 複写 | 51 | 128 | 54 | 233 | 2 | 9 | 29 | 11 | 5 | 10 | 18 | 16 | 5 | 7 | 42 | 386 |
| | 13.2 | 33.2 | 14.0 | 60.4 | 0.5 | 2.3 | 7.5 | 2.8 | 1.3 | 2.6 | 4.7 | 4.2 | 1.3 | 1.8 | 10.9 | |
| 現物貸借 | 3 | 63 | | 66 | | | 10 | | 4 | | | | | | 43 | 123 |
| | 2.4 | 51.2 | | 53.7 | | | 8.1 | | 3.3 | | | | | | 35.0 | |

下段は割合 (%)